視覚的な絵本探索支援としての『反重力本棚』の提案

西川遥海

現在，一般的に利用される本棚では背表紙を手前側に向けて横に並べて排架される場合が多い．この本棚に大きさが多様な本を排架すると，上端が大幅に上下し，背表紙に記載されたタイトルの開始位置が揃わず視覚的に探しづらくなる．大きさが多様な本の中でも絵本は，その厚みの無さと漢字をほとんど使用しないという特徴から，タイトルが読みづらく特に探しづらい．そこで本研究では，視覚的な絵本探索支援としての『反重力本棚』を提案し，この提案手法が客観的，主観的な探しやすさの向上に寄与するかどうか明らかにすることを目的とする．

『反重力本棚』は背表紙上端を揃えて排架した本棚を指す．背表紙上端を揃えることで記載されたタイトルの開始位置がある程度揃うため，タイトルの見やすさや探しやすさの向上が期待される．この効果を検証する比較実験を行うために，実験装置としての反重力本棚と通常の本棚を作成した．反重力本棚の作成方法は，試行錯誤を繰り返した結果，サテンリボンと結束バンドを用いてスチールラックに吊るす方法に決定した．

比較実験では，まず作成した通常の本棚と反重力本棚を用いた探索実験を行い，その後主観的な探しやすさについての質問紙調査を実施した．探索実験では協力者がそれぞれの本棚に存在しない絵本の探索を行い，実験実施者は協力者が無いと判断するまでに要した時間を計測した．質問紙は 5 段階評価と自由記述式の設問により構成した．5 段階評価については，反重力本棚と通常の本棚のそれぞれについて，指定の絵本が存在するかどうか確認しやすかったかと，タイトルが見やすかったかの 2 つを問うた．自由記述式の質問では，反重力本棚と通常の本棚のそれぞれについて，良かった点と悪かった点について尋ねた．

大学生 11 名を対象に実験を行った結果，探索時間については反重力本棚と通常の本棚の間に有意な差は見られなかった．一方，質問紙の 5 段階評価においては，反重力本棚の方が指定の絵本が存在するかどうか確認しやすく，タイトルが見やすかったということがわかった．また，自由記述から，反重力本棚はタイトルの開始位置がある程度揃っていてタイトルが見やすく，視線が動かしやすくて探しやすいが，作者や大きさが伝わりづらく，馴染みがないことが明らかになった．対して，通常の本棚は比較するとタイトルの開始点が絵本ごとに大きく異なり視線移動が激しいが，絵本の大きさがわかりやすく，見慣れていることがわかった．

本研究によって，反重力本棚は主観的な探しやすさの向上に寄与することが明らかとなった．今後は，子供が使用する場合や絵本以外の本棚に適用した場合についての検証と，より実用に即した反重力本棚の作成方法の検討が望まれる．

（指導教員　松村敦）